

第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成25年10月1日(火) 5校時

学 級 3年A組(男子16名 女子17名 計33名)

指導者 教諭 鈴木 萌子

1 単元名 小説の展開や表現に着目した解説シートをつくろう

2 学習材名 「故郷」 魯迅 竹内好 訳(光村図書 3年)

補助教材名 「故郷」 魯迅 藤井省三 訳

3 単元について

(1) 生徒観

昨年度の岩手県学習定着度調査において、最も生徒が苦手意識を感じていた項目が、「表現の特徴をとらえて読む」であり、正答率が18.7%という結果であった。文章を客観的に読む力が弱いといえる。そこで、一学期に、「走れメロス」(太宰治)を学習材として、「批評交流会をする」という単元を設定し、その中で、主観的な描写と客観的な描写を区別し、それぞれの効果について考える学習活動を行った。学習活動を通して、視点を意識して読んだり、表現の工夫に着目したりすることで内容理解が深まることが分かってきているが、まだ個人差が大きい。

こうした実態を踏まえて、本単元の主な指導事項を「文章全体と部分の関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること(読むこと イ)」と「文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること」(読むこと ウ)とする。文学的文章において、表現の仕方の違いについて理解し、その特徴や効果について評価できる力を高め、深い内容理解や心情理解につなげていけるようにしたい。

(2) 教材観

「故郷」は、中国近代文学の父と呼ばれる魯迅の作品で、文学によって中国の近代化に一生を捧げようとした作者の生き方や考え方がよく表れている。この「故郷」では、情景の描写によって社会状況や登場人物の心情を暗示したり、人物の外見の描写によってその人物の気持ちの変化や社会状況の変化が捉えられるように表現が工夫されたりしている。そこには、魯迅の思いと合わせて、訳者である竹内好氏の思いも込められている。

副教材としては、藤井省三訳の「故郷」を扱う。藤井省三氏は竹内好氏の功績を認めながらも「魯迅独特の文体が失われているのではないかと問題提起をし、より原作に忠実な訳をしている。訳者の異なる二つの「故郷」を比べて読むことでより表現の特徴や効果に着目できると考える。

(3) 指導観

①単元を貫く課題解決的な学習

本単元を貫く課題解決的な学習として「故郷の解説シートを作成する」ことを位置づけた。生徒の初読時の感想の多くが、「難解である」という評価であった。要因としては、「時代背景」「社会背景の違い」などが考えられる。そこで、この感想をもとに、学習したことを解説シートにまとめて図書室に掲示することで、次に読む人へのガイドにするということを目的にする。解説シートには、「時代や社会背景」「訳文の違い」「小説の概要(人物関係・人物の変容・人物の心情)」をまとめることとし、この項目が単元の学習活動に位置付けられる。自

分たちが難解であると感じた作品を、表現の効果などの観点にそって読み、内容理解をすすめていくことにふさわしい課題解決的な学習であると考えた。

②比べ読みを取り入れた授業展開の工夫

優れた表現の効果をはっきりさせるため、比べ読みを取り入れた授業を展開する。二人の訳者の「故郷」を比べ読みし、それぞれの表現を客観的に見てその効果を考えられるようにする。藤井省三氏の訳は、より原作に忠実な訳となっている。原作に忠実な訳と、教科書教材として長年親しまれてきた竹内好氏の訳を比べることにより、表現の特徴に目を向けさせたい。

③表現に着目することに重きを置いた授業展開の工夫

単元の前半（1・2時間目）で、資料やワークシートをもとに「時代や社会背景」「あらすじや場面展開」をとらえ、小説の全体像をしっかりと確認する。3時間目に異なった訳文を用いて、表現の特徴に着目させる。4・5時間目は人物像や心情をとらえる学習を行い、そこでも3時間目の表現に着目することが活用されるようにワークシートを工夫し、学習活動を展開する。表現を根拠にして、引用しながら考えたことをまとめていくことができるようにすることで、表現に着目することに重きを置いた授業展開を工夫する。

4 単元の目標

【国語への関心・意欲・態度】

- ・小説を読み、展開や表現の仕方を評価して自分の考えを深めようとする。

【読むこと】

- ・文章の展開の仕方、場面の登場人物の設定の仕方を捉え、内容の理解に役立てることができる。
- ・小説を読み比べて、表現の仕方の違いに気付き、描写の特徴や効果について評価することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・小説の書かれた時代の言葉の意味や使われ方に着目し、時間の経過による言葉の変化に注意して読むことができる。

5 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
評価規準	小説を読み、展開や表現の仕方を評価して自分の考えを深めようとしている。	小説を読んで紹介するために、場面や登場人物の設定の仕方をとらえて、文章全体の理解を深めている。(イ) 異訳文を読み比べて、表現の仕方の違いに気付き、描写の特徴や効果について評価している。(ウ)	小説の書かれた時代の言葉の意味や使われ方に着目し、時間の経過による言葉の変化に注意して読んでいる。(イ(ア))

6 単元の指導計画と評価計画（全7時間 本時3／7）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	学習過程における 評価規準と評価方法
一	1	○最初の感想や作者、時代背景についての概略をもとに、学習計画を立てる。	・「難解」と感じた自分たちの感想から、読むときのガイドとなる紹介シートを作成することを単元の課題に設定する。	・展開や表現の仕方に着目しながら小説を読み、作品紹介を作るための学習計画を考えている。【関】（ワークシート） ・登場人物の設定や場面構成を理解している。【読イ】（ワークシート）
	2	○作品の場面展開やあらすじをつかむ。	・「人物設定と関係」「4つの場面（少年時代・ヤンおばさんとの再会・ルントウとの再会・離郷）」を視覚的にワークシートにまとめさせる。	
二	3・本時	○訳者の異なる「故郷」を比べて読み、表現の違いやその効果について評価する。	・二つの訳文の比較から、表現の違いによる効果に気付かせ、具体的な表現を根拠として引用し、評価をまとめさせる。	・訳者の異なる「故郷」を読み比べて、表現の違いに気づき、それぞれの効果について評価している。【読ウ】（ワークシート） ・場面の登場人物の設定や関係性、表現の仕方、描写から心情をとらえている。【読イ】（ワークシート） ・小説の書かれた時代の言葉の意味や使われ方に着目し、時間の経過による言葉の変化に注意して読んでいる。【言（イア）】（ワークシート）
	4	○回想場面から少年時代のルントウと「わたし」の関係をとらえる。 ○ヤンおばさんとの再会場面からヤンおばさんの変容をとらえる。	・4つの場面における関係性や変容、心情をとらえるために、根拠となる表現を適切にとらえることができるよう、ワークシートを工夫する。	
	5	○ルントウとの再会場面からルントウの変容をとらえ読み取り、「わたし」とルントウの心情を考える。 ○離郷の場面から故郷を去る「わたし」の思いをとらえる。	・3時間目の表現の効果や場面展開の工夫などの観点からも、関係性や変容、心情をとらえることができるようにする。	
三	6	○学習内容をふりかえり、「故郷」の紹介シートにまとめる。	・グループでシートの項目を分担し、グループ全体で一枚のシートが完成できるようにする。	・学習した内容をとらえて、紹介シートにまとめようとしている。【関】（紹介シート）
	7	○紹介シートを完成させる。	・完成したシートを他グループと見合いながら、学習をふりかえる。	

7 本時の指導（本時 3 / 7）

(1) 目標

訳者の異なる「故郷」を読み比べて、表現の違いに気付き、それぞれの効果について評価することができる。

(2) 研究に関わる授業構想

研究に関わって本時は、比べ読みを取り入れた授業を展開する。原作に忠実な藤井省三氏の訳と、教科書教材として長年親しまれてきた竹内好氏の訳を比べることにより、表現の特徴に目を向けさせる。

(3) 本時の評価の観点と判断基準

A 十分満足できる	B おおむね満足できる	努力を要する生徒への手立て
訳者の異なる「故郷」を読み比べて、表現の違いに気付き、選択した訳文の表現の効果について複数の根拠を用いて評価することができる。	訳者の異なる「故郷」を読み比べて、表現の違いに気付き、選択した訳文の表現の効果について根拠をもとに評価している。	引用する部分を指定して、その部分だけを比べさせ、表現の違いに気付かせるようにする。

(4) 展開

段階	学習活動	学習内容	指導上の留意点
導入 5分	1 前時の内容について想起する。	<ul style="list-style-type: none"> 作者、時代背景 あらすじ 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介シートのモデルを提示する。 学習する二つの訳文（冒頭部分）を板書に示し、違いをとらえさせ、学習課題につなげるようにする。
	2 本時の学習課題を確認する。 ・学習材の確認		
二つの「故郷」を読み比べ、表現の効果を考えよう。			
展開 40分	3 学習の見直しを確認する。 ・学習方法の確認	竹内訳「鉛色の空」⇔藤井訳「どんより」などの表現が異なる部分に線を引くこと 「鉛色の空」「わびしい村々が～横たわっている」「覚えぬ寂寥の感が胸にこみ上げた」「故郷であろうか」「その影はかき消され、言葉は失われてしまう」「住み慣れた故郷」「なじみ深い故郷」の中から根拠となる表現を引用すること	<ul style="list-style-type: none"> 表現の仕方によってどんな違いがあるかを考えていくことを確認する。 二つの訳文を上下に分けたワークシートを提示し、読み比べやすくする。 3, 4人のグループごとにあらかじめ役割分担をさせ、進めさせる。
	4 学習課題を解決する。 (1) 二つの訳文を比べ、表現が異なる部分に線をひく。		
	(2) どちらが「より寂しさが伝わる表現か」を選び、その根拠を考える。 (3) 自分の考えを交流する。		
終末 5分	5 学習を振り返る。		<ul style="list-style-type: none"> 表現の仕方による違いの効果についてまとめる。 単元の後半も、表現の仕方に気をつけて読むことを確認する。
	6 次時の内容を確認する。		

(5) 板書計画

冒頭部分	竹内好 訳 故郷
冒頭部分	藤井省三 訳 故郷

神無月一日
故郷

魯迅

二つの「故郷」を読み比べ、表現の効果を考えよう。

○本時の進め方

- ①二つの訳文を比べ、表現が異なる部分に線を引く。
- ②より寂しさが伝わる表現を選ぶ。
- ③選んだ理由を考える。
- ④グループで考えを交流する。
- ⑤全体で考えを交流する。

○グループごとの根拠

- A 鉛色の空
- B 覚えぬ寂寥の感が胸に…
- C 住み慣れた故郷
- D ……